第39号
2007年9月

発行元:社団法人　家畜改良事業団　家畜バイテクセンター
URL:http://liaj.lin.go.jp/(http://liaj.or.jp/ivf/)

卵通信

体外受精

contents

■ ①　NEWS　第16回 体外受精卵産子枝肉共励会
■ ②～③　おじゃまリポート　高く売れる子牛をつくる！
■ ④　群馬県前橋家畜市場

News

第16回体外受精卵産子枝肉共励会※が開催(上物率84.2%)

長野県南信酪農協の黒内完二さんが最優秀賞を受賞！

7月12～13日、第16回体外受精卵産子枝肉共励会が、東京都中央卸売市場食肉市場で開催されました(主催：財団法人興農会、協賛：東京食肉市場株式会社、社団法人家畜改良事業団)。今回は10県15団体から57頭が出品されました(去勢44頭、牝13頭)。

最優秀賞は長野県南信酪農協の黒内完二さん出品による「美津照」産子が受賞し、枝肉単価2,790円で競り落とされました。今回出品された57頭中、28頭(49%)が5等級に、20頭(35%)が4等級に格付けされ、上物率は84.2%となりました。

褒賞授与式で、主催者である財団法人興農会の海老澤理事長は、「最優秀賞を受賞された黒内氏は、3頭出品中2頭が入賞という大変良い成績でした。これも肥育技術向上の賜だと思われます。皆様にも黒毛和種の量的拡大のためバラツキのない均質な肉の生産を目指していただきたいと思います。」と話され、肥育技術の更なる向上を目標とされました。

なお、詳細なデータは当センターホームページ(http://liaj.or.jp/ivf/)に掲載しております。

※今回より共励会の開催回数は東京・大阪の通し番号となりました。

最優秀賞
黒内完二さん
(南信酪農協)

種雄牛	美津照
性別	去勢
月齢	29
格付	A5
枝肉重量	491kg
ロース芯面積	60cm²
BMS No.	12
枝肉単価	2,790円
枝肉金額	1,369,890円

●種雄牛別成績

種雄牛名	性別	頭数	月齢	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm²)	ばらの厚さ(cm)	BMS No.	枝肉単価(円)	枝肉金額(円)
安福165の9	去勢	23	29.5	487.8	62.1	9.1	6.7	1,835	899,281
	牝	6	30.0	457.7	62.0	8.5	6.8	2,059	937,305
福　栄	去勢	10	29.7	514.4	61.2	9.3	7.9	2,169	1,115,371
	牝	6	30.2	439.2	60.3	8.8	7.7	2,313	1,015,342
第6栄	去勢	1	30.0	504.0	61.0	9.2	3.0	1,521	766,584
	牝	1	27.0	406.0	50.0	7.1	5.0	1,644	667,464
美津照	去勢	7	29.3	476.7	56.6	8.7	8.3	2,148	1,023,930
安平照	去勢	1	26.0	418.0	55.0	8.7	9.0	2,522	1,054,196
松福美	去勢	1	29.0	575.0	66.0	9.0	9.0	2,132	1,225,900
北　仁	去勢	1	28.0	461.0	60.0	9.3	9.0	2,192	1,010,512
全　体	去勢	44	29.4	492.2	60.9	9.1	7.3	1,984	978,679
	牝	13	29.8	445.2	60.3	8.5	7.1	2,144	952,565
	計	57	29.5	481.5	60.8	9.0	7.3	2,021	972,723

高く売れる子牛をつくる！

生まれた子牛を、家畜市場で高く売れる子牛にするにはどうすればいいの？
今回は、体外受精卵産子の取引頭数が熊本県家畜市場に次いで全国で2番目に多い群馬県の前橋家畜市場に実際に子牛を出荷している酪農家の方々に、高く売れる子牛づくりの秘訣をお伺いしました。

〈群馬県・Aさん〉
搾乳約50頭、ご主人と奥様で営農されています。

- 以前は3ヶ月間脱脂粉乳だけで育て、80～90日で140kgぐらいになった。初めは高く売れたが、結果的に購買者からの評判が悪かったので哺育方法を変えた。
- 初乳は搾乳をしている間で、作業の都合のよい時間に与えている。母牛から自然に飲んでいることもある。
- ミルクは飲みたいだけ、エサは食べたいだけふんだんに与える。
  ミルクは最初から1回6ℓ、1日2回用意する。牛が飲み残していれば捨てる。
- 生まれてから10日頃までは全乳を与え、それ以降は脱脂粉乳と全乳を混ぜて与える。
- 秋～5月いっぱいの涼しい時期は、出荷しない全乳を低温で保存。脱脂粉乳500g＋お湯1ℓに全乳を加えて6ℓにしたものを与える。
  離乳前は脱脂粉乳1kg＋お湯1.5ℓに全乳を加えて6ℓ程度まで脱脂粉乳を濃くする。
- それ以外の暑い時期は全乳の保存ができないので、バルクタンクから全乳を使う。
  そのため加える全乳の量は涼しい時の半分。減った分はお湯を加えて6ℓにする。
- 脱脂粉乳を溶かすお湯の温度は測っていない。溶ければよい。ダマにならずにきれいに溶ける製品を使う。

- 下痢はそんなに多くない。日頃濃い脱脂粉乳を与えているので、下痢をしたときはそれを少し薄くすれば治まる。
- ミルクは、ずっと吸い口の付いたバケツで与えている。がぶ飲みはさせていない。
- スターターは1ヶ月ぐらいで与え始める。自由採食。
- 粗飼料は、子牛が盗食し始めたら与える。
- 2ヶ月程度で離乳してからは乾草中心に与える。
- 育成用のエサを食べるように切り替えてから出荷している。
- 全ての成牛と分娩予定の未経産牛に対して5月にアカバネ、9月にコロナの予防注射をしている。

群馬県前橋家畜市場

〈群馬県・Bさん〉
搾乳約80頭、ご主人と奥様、息子さんで営農されています。

- 生まれてから24～30時間ぐらい母牛に付けておく。
- 初乳は特に搾らない。子牛が母牛に吸い付いているようであれば大丈夫。もし吸い付いていなくても1日程度なら特に問題ない。母牛から離した後哺乳瓶でミルクを与える。
- 朝晩、ミルクを持って行ったときに子牛の様子を見る。具合が悪そうであれば熱を測り、場合によっては獣医師の指示を仰ぐ。
- 初めの３～４日は吸い口の付いたバケツでミルクを与える。以後はバケツでがぶ飲み。
- ミルクは1日2回、1回に全乳２ℓを与える。1週間ぐらいから湯に脱脂粉乳を溶いたものを足していく。
  1ヶ月の時は全乳２ℓ＋500gの脱脂粉乳を溶いて１ℓにしたお湯＝計３ℓを1日2回与える。
  出荷前には全乳２ℓ＋1kgの脱脂粉乳を溶いて４ℓにしたお湯＝計６ℓを1日2回与える。
- 牛の大きさによって与える量を変える。
- 下痢はめったにしない。嫌だと思えば牛がミルクを飲まない。ミルクが残っていれば片付けて、ぬるま湯を置いておく。

- スターターは与えていない。
- 乾草は敷料を適当に食べている。
- 夏場の暑いときだけ、ミルクを飲み終わった後水分（ぬるま湯）を与える。
- 50日齢・80～100kgぐらいで出荷。
- 牛舎の中に分娩房をつくってから子牛に注射はほとんどしていない。成牛も含めてワクチンは打っていない。
- 敷料として戻し堆肥を使うようになってからハエが出なくなった。
- 牛が座っているときにアンモニアを吸わないように牛舎の風通しはよくする。

【ま　と　め】

今回は群馬県前橋市場で子牛を高く販売されている酪農家の方々に哺育のコツをお伺いしました。それぞれ独自の工夫をされていますが、お二方に共通したのは

◆脱脂粉乳の量
◆それぞれの子牛に合わせた給餌
（子牛の自主性）

でした。前回の熊本編でも、濃い脱脂粉乳を与えて大きさを出すという方がいらっしゃいました。酪農家の皆様にはぜひこれらの「高く売れる子牛」づくりのポイントを参考にしていただき、経営に生かしていただければと思います。

卵通信

体外受精

第39号

2007年9月

発行元　社団法人　家畜改良事業団　家畜バイテクセンター
〒140-0002　東京都品川区東品川3-21-10　ヤダビル3F
TEL 03-3740-2709　FAX 03-3740-2719

ひと夏の　旅のかほりを　想いつつ

群馬県前橋家畜市場

体外受精卵産子取引のメッカである熊本県家畜市場を訪問して、その盛況ぶりを第38号に掲載しました。その中に「高く売れる子牛をつくる！」と題した特集を組み、生産者の方々から哺育の勘どころをお伺いしたところ、読者の皆様からは他の市場での事例紹介も望むという声をいただきました。そこで、今回は古くから体外受精卵産子の取引が行われてきた群馬県の前橋家畜市場にお邪魔しました。

前橋家畜市場は関越自動車道前橋ICすぐそばという好立地、また市場は毎週開催されるという好条件が重なり、群馬県内のみならず関東一円から広く生産者・購買者が集まる活気ある家畜市場です。

前日までの雨が嘘のような晴天の7月5日、雄12頭、雌5頭の体外受精卵産子が上場され、右上の表にもありますように雄が平均98日・123kg・41.6万円、雌が平均92日・120kg・32万円という高い価格で取引されました。

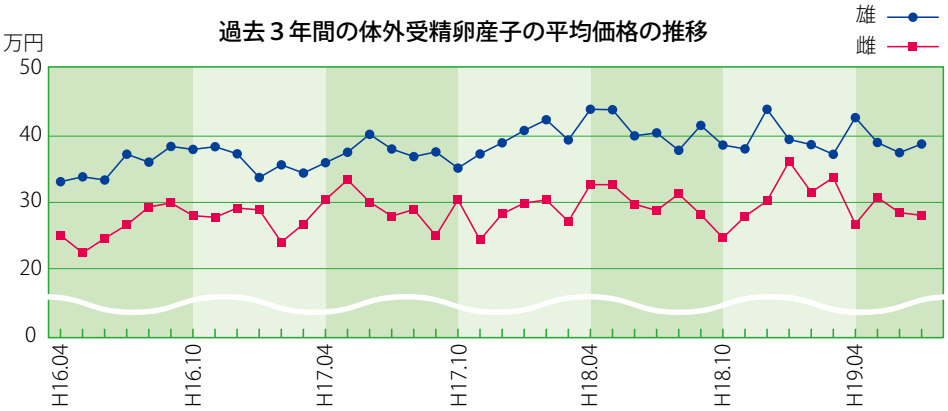
下のグラフにもありますように、前橋家畜市場の取引価格は右肩上がりの傾向にあり、最近は平均40万円前後（雄）で安定しています。また、一回の上場頭数はそれほど多くないものの、種雄牛は「安福165の9」「福栄」「第6栄」「茂勝栄」「安茂勝」「藤平茂」と多岐に渡っているという特徴があります。

購買者のニーズと、それに応える生産者の考え方がマッチした市場といえると思いますが、多岐に渡る種雄牛の子牛をどのように育てたら高く買っていただけるのでしょうか。熊本編に引き続き、生産者の方々にお話をお伺いしました。

7月5日の体外受精卵産子販売成績

	雄	雌
入場頭数	12頭	5頭
最高価格	483,000円	342,000円
最低価格	354,000円	293,000円
平均価格	416,417円	320,600円
平均日齢	98日	92日
平均体重	123kg	120kg

過去3年間の体外受精卵産子の平均価格の推移



編集後記

空梅雨・猛暑の予想から、一転長雨、大雨に見舞われて始まった東京の夏でしたが、お盆休み前には、やはり酷暑といってもよい位の天候になりました。全国的に酪農や畜産経営に支障が出ているのではないかと、心配なところです。それにしても、今年の夏は暑い。74年ぶりに、国内最高記録の気温が塗り替えられるなど、これもやはり異常気象なのでしょうか？

今号も内容は暑い（熱い）？。群馬・前橋家畜市場はセリ場が熱いようです。その熱さに、引っ張られるように、生産者の皆さんも子牛の哺育には冷静にかつ熱く取り組んでおられるようです。このような熱さなら、年中各地で起こっていて欲しいものです。生産者の熱い思いを読み取って頂ければ幸いです。